



発行日/2015年12月15日  
 編集・発行/堺市立健康福祉プラザ  
 視覚・聴覚障害者センター  
 聴覚障害者情報提供施設  
 〒590-0808 堺区旭ヶ丘中町4-3-1  
 Tel:072-275-5024 Fax:072-243-2222  
 Mail:mimi@sakai-kfp.info

# みみよい

【あいさつ】

派遣「」デザイナー  
 坪井 順子

早いもので、2015年も残りわずかとなりました。皆さんにとって、どのような一年でしたか。

堺市では色々な行事や講演会、学習会等に手話通訳や要約筆記が付いているのをご存知でしょうか？

プラザが出来て4年が経ち、行事の担当部署に働きかけをして、少しずつ、講演通訳の派遣件数が増えてきました。

初年度、手話219件、要約筆記76件だったのが、昨年度は手話262件、要約筆記112件になりました。今年度も様々な分野に通訳がついていて、昨年度の件数を上回りそうな勢いです。

広報やちらしに、「通訳あり」と書いてありますので、興味があるイベントや講演会を楽しんでいただきたいと思います。

「聞こえの相談会」を開催しました



11月26日(木)、L ink(リンク)代表の大坪健二さんをお招きし、ご自身の中途失聴の体験談と、

開発されたiPhoneのアプリの体験会を開催しました。

大坪さんは、保育士として活動しておられた時、おたふく風邪が原因で右耳を失聴しました。その時の気持ち、治療の

様子などを時間の経過に沿って詳しく、時にユーモラスに語られました。聞こえないことに気づいた時の不安や、保育士として働くことをあきらめた時の気持ちは、参加された方たちの共感を呼びました。また、「自分の状態を理解してもらうためにどのような言葉を選択するか」という具体的な提案もあり、「自分も『聞こえない』ではなく『聞き取りにくいんです』と説明してみます」との感想をいただきました。



アプリの体験は、スマートフォンを使っておられない方には少し難しかったようですが、イヤフォンをつけた途端「よく聞こえる！」と表情が明るくなられた方がおられたのが印象的でした。聞こえない、

聞こえにくいことで、周りの方のおしやべりをあきらめてしまったり、意欲をなくしてしまったりする方が多くおられます。「聞こえ」を補うこと、別の方法でコミュニケーションを図ることで人間関係を回復していただけるよう、これからはいろいろな情報をお届けしたいと思います。

読めるかな？

堺の神社シリーズです



堺市西区にある通称  
 (勝駒八幡宮)  
**「踞尾八幡  
 神社」**  
 「義経腰かけ石」が  
 あります。



## 「みみサロン」を開催しました!



11月は、年6回の「みみサロン」の中でも一番のビッグイベント。今回は「手話の秋を楽しみましょう」と題して開催しました。

2年ぶりの堺聴覚支援学校の生徒さんの和太鼓披露。音楽部のメンバーは14名おられるのですが、今回は6名の力強い演奏から始まり

という5分ほどのオープニングでしたが、心に響く人も多く、「来年もぜひ!!」「また見たい」とたくさんの方がアンケートで寄せられました。

絵本読み聞かせ「くるくる」さんからは2つの絵本とゲーム。『「手」はいろんな場面で使える大事で素敵なもの』という大きなメッセージがこめられている『てとてとてとえ』、『サルくんとブタさん』は手話ブームに沸いた作品のひとつである昼ドラの『ラブレター』の原作だそうです。どちらの絵本も今回の「手話の秋」にぴったりの内容でした。ゲームは乗り物や生き物などのキーワードに対して、



身振りや手話で同じことを言わないようにするゲームです。小さい子どもの「魚」や、隣り同士で重なってしまった「ペンギン」など、たくさんの方の身振りや手話を見るのができました♪

最後は、大阪府立大学の手話サークル亜飛夢さんの手話劇『3番目の願い事』というタイトルで、1回生が頑張って披露してくれました。堂々と前を向いて表現される亜飛夢さんのスタイルはとってもいいですね♪オリジナリティのある作品で、メールのやり取りをする場面も、二人で並んでメールの内容の話だけではなく、「メール送信」と「メール受信」と表現しながら、話の前後がわかるような工夫もありました。

60名ほどの参加者があり、盛大に終わることができました。今年には会場の都合で3団体しか招待できませんでしたが、5名の来賓の方にも来ていただきました。盛り上げてくださったみなさま、今年もありがとうございました!!



## ずっと仲間「難聴者のためのミニコミュニケーション教室」

9月から始まった6回の「会話コース」も無事に終了することができました。なかまは今ままで最高の9名です。

今回のコースでは、何回も復唱してもらう「シャドーイング」という方法だけではなく、会話のキャッチボールがしやすくなるよう工夫しました。工夫のひとつとして、出席をとるときも講師が名前を表現するのを読み取って、挙手してもらう方法に。その方法を繰り返している最後のほうでは、頭文字を言うだけでもすぐに読み取ってもらえるようになりました♪

ゆつくりペースで進めましたが、最後は講師が目標としていた「ひとつの文を表現できる」までに上達。少しずつ、手話でお話できるようになりました。

来年度も今年度同様、前期と後期に分け、12回の実施の予定です。広報に載せられるように準備いたしますので、ぜひチェックしてくださいね。

〔担当講師より〕

○最終日の「もう終わりなん?」、「普段手話使わないから忘れるわ」という声が印象に残っています。教室で一生懸命に学んでも、家に帰ると誰も手話を使わないので忘れてしまいますね。いろんなコミュニケーション方法も学んだので、



## 手話通訳者養成講座・レベルアップ講座

### 仲間と共に学習を続けましょう

年の瀬が迫り、講座もいよいよ終盤が近くなってきました。受講生の方々はどうしても、修了証がもらえるかどうか気になるところですね。もらえたからと言って、手話の技術が上がるわけではありませんが、レベルアップ講座を受講するには、原則、手話講習会の修了証が必要なので気になるのも仕方ないことですね。



## 要約筆記者養成講座

### 修了まであと少し！

実技のノートテイクの講義が終り、あと2回の講義と実技で修了です。春から始まった講義も経験を積むごとにだんだんと顔つきがプロらしく変わってきました。全員修了を目指してがんばりましょう。



### 秀人のおすすめ

「NHKスペシャル 鬼太郎が見た玉砕  
～水木しげるの戦争～」

漫画家の水木しげるさんは、太平洋戦争中、ニューブリテン島で約2年間、兵隊として過ごしました。

昭和20年6月、水木さんの所属部隊は敵の夜襲で全滅。ただ1人生き残った水木さんはその後の爆撃で左腕を失います。復員後は、戦死した戦友たちの亡霊に頼まれ、部隊が玉砕するまでを漫画に描きました。漫画家・水木しげるの体験した戦争と玉砕を描いています。

「連続テレビ小説 ゲゲゲの女房

総集編 第1回～第3回」

「ゲゲゲの鬼太郎」の作者、漫画家・水木しげるさんの妻・武良布枝さんの自伝「ゲゲゲの女房」が原案の総集編です。好きなことに命懸けで打ち込む夫を支え、おおらかに、朗らかに生きていくヒロインとその家族を描いています。



### センターの行事

12月17日(木) 15:30～17:00

「難聴者のための もじサロン」  
シナプソロジー教室

12月26日(土) 14:00～17:00

「難聴児相談」 ※予約制

1月16日(土) 14:00～16:00

「みみサロン」

聴導犬ユーザーとして

1月21日(木) 13:30～16:30

「補聴器相談」 ※予約制

毎週木曜日 12:30～12:45

ミニ手話講習会「手話っぴい」

## 雨張っています 手話通訳・要約筆記者登録者

実  
施  
済

手話通訳者実技研修会CD対象 10/17

盲ろう者手引き研修 10/30

登録者合同研修会 11/14

要約筆記者実技研修会(手書き) 11/18



手話通訳者研修会 12/15(対象者が主体であるためにⅡ)  
手話通訳者実技研修会 AB対象 12/12 CD対象 12/19  
要約筆記者実技研修会 1/28

(確認しよう！ 要約筆記の技術と理念)



「読めるかな？」

の答えは・・・

「つくおはちまん  
じんじゃ」でし  
た。



## 事業状況

		手話通訳		要約筆記		ライブラリー	
		個人	講演	個人	講演	利用者数	貸出数
10月	派遣数	295件	31件	20件	12件	42人	109本
	派遣人数	305人	81人	36人	39人	新規登録者：2人	
11月	派遣数	274件	37件	13件	19件	30人	73本
	派遣人数	292人	93人	23人	56人	新規登録者：2人	

ご協力  
ありがとうございました

